

人口減少対策調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和8年4月14日（火）
午前9時22分 開会
午前10時29分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 西田 真
副委員長 荒木 慎太郎
委 員 太田 智博、芹澤 正志、
竹中 理、福田 嗣久、
森垣 康平
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 橋本 郁夫
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

人口減少対策調査特別委員長 西田 真

人口減少対策調査特別委員会 次第

日 時：2026 年 4 月 14 日(火) 9:30～

場 所：第 1 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【市長公室】 経営企画課

【くらし創造部】 地域づくり課

【こども未来部】 こども未来課

【産業経済部】 環境経済課

(2) 委員会重点調査事項について

(3) その他

5 閉 会

人口減少対策調査特別委員会名簿

【委 員】

2026年4月14日現在

職 名	氏 名
委 員 長	西 田 真
副 委 員 長	荒 木 慎太郎
委 員	太 田 智 博
委 員	芹 澤 正 志
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久
委 員	森 垣 康 平

7名

【当 局】

職 名	氏 名
市長公室長	谷 口 雄 彦
経営企画課長兼未来 共創室長	浪 華 誠
くらし創造部長	太 田 垣 健 二
地域づくり課長	宮 田 裕 史
こども未来部長兼子 育て専門官	若 森 洋 崇
こども未来部次長 兼こども支援課長	吉 本 努
こども未来課長	旭 和 則
こども未来課参事	丸 谷 祐 二
産業経済部長	坂 本 成 彦
産業経済部次長兼環 境経済課長	瀬 崎 晃 久

10名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局	橋本 郁夫

人口減少対策調査特別委員会重点調査事項

2026. 4. 14

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 結婚支援・子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等に関する事項

午前9時22分開会

○委員長（西田 真） 皆さん、おはようございます。

定刻前ではありますが、皆さんおそろいでありますので、ただいまから人口減少対策調査特別委員会を開会したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

桜もあっという間に散りまして、せっかく春らしい入学シーズンだったと思いますが、雨と風で一気に散ってしまっちゃってちょっと残念だなと思ったりもしております。そして、天気がよくなりまして、これから田植のシーズンもなってきますし、いろいろと皆さんお忙しいと思いますが、議会の皆さんも当局の皆さんも、市政推進のために一緒になって頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、着座で進めさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の委員会に欠席届はありませんので報告しておきます。

それでは、3番目の協議に入りますまでに、今回は年度当初の委員会であり、4月1日付の人事異動で当局職員に異動がありましたので、ここで、出席の皆さんに自己紹介をしていただきたいと思います。

まず、委員からですが、私、委員長の西田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、副委員長、お願いします。

○委員（荒木慎一郎） 副委員長の荒木です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（芹澤 正志） 委員の芹澤です。よろしくお願いいたします。

○委員（森垣 康平） 森垣です。よろしくお願いいたします。

○委員（福田 嗣久） 福田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（太田 智博） おはようございます。新入気分の太田です。よろしくお願いいたします。

○委員（竹中 理） 委員の竹中です。よろしくお

願いします。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

次に、市長公室、くらし創造部、こども未来部、産業経済部の順でお願いいたします。

○市長公室長（谷口 雄彦） おはようございます。

市長公室長の谷口です。よろしくお願いいたします。

○経営企画課長（浪華 誠） おはようございます。

経営企画課長の浪華と申します。よろしくお願いいたします。

○くらし創造部長（太田垣健二） おはようございます。新入気分のくらし創造部長です。どうぞよろしくお願いいたします。

○地域づくり課長（宮田 裕史） おはようございます。地域づくり課長の宮田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） こども未来部長兼子育て専門官の若森です。よろしくお願いいたします。

○こども未来部次長兼こども支援課長（吉本 努） おはようございます。こども未来部次長兼こども支援課長の吉本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○こども未来課長（旭 和則） こども未来課長の旭と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○こども未来課参事（丸谷 祐二） おはようございます。こども未来課参事の丸谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

○産業経済部長（坂本 成彦） 産業経済部長の坂本です。よろしくお願いいたします。

○産業経済部次長兼環境経済課長（瀬崎 晃久） おはようございます。産業経済部次長兼環境経済課長、瀬崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。最後に、事務局、お願いします。

○（橋本 郁夫） 議会事務局、橋本です。よろしくお願いいたします。

○委員長（西田 真） それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

協議事項に入ります前に、連絡をさせていただきます。

ます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、4番目の協議事項です。

まず、(1)の委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダ、人口減少対策調査特別委員会2025.11、20260414の中に配信しております資料をご覧くださいと思います。

それでは、経営企画課、地域づくり課、こども未来課、環境経済課の順で説明をそれぞれお受けしまして、課ごとに質疑を執り行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、経営企画課の説明をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○経営企画課長（浪華 誠） それでは、経営企画課の事務概要についてご説明をします。

3ページをご覧ください。地方創生（人口減少対策）の推進です。

まず、現況と課題です。人口減少が引き続き進行しておりまして、2025年3月に改訂をしました人口ビジョンでは、2020年に7万7,489人であった人口が、政策努力なしの推計基準では、2050年に4万7,432人、2070年には2万9,528人まで減少すると見込まれております。また、若い世代や子育て世代の定着、地場産業の担い手不足や事業承継の停滞といった課題への対応も求められております。このため、各分野の取組を点ではなく、横断的につないで、人口減少の緩和と地域の社会、経済、文化の質的向上を図る必要があると考えております。

基本方針です。本年3月に策定をしました市政経営方針（後期）と第3期地方創生総合戦略では、市政経営方針と地方創生総合戦略を一体の計画として位置づけ推進することとしております。今後は、

国の地方創生の方向性も踏まえながら、市の全ての施策、事業は人口減少対策であり、まちの総力戦という考えの下、創生5を柱として、各分野を相互に関連させながら、地方創生を推進していきます。

概要です。3月に策定をしました市政経営方針と第3期地方創生総合戦略に基づいて、2つ目の基本的進め方に記載のとおり、創生5を柱として、シェアリングや新結合等の視点で分野横断的な取組を進めるほか、攻めと守り、量的緩和と質的転換の両輪により、新たな価値の創出と日々の暮らしを支える基盤の維持を一体的に進めてまいります。このほかにも、市民や地元企業、地域団体といった豊岡に関わる多様な主体との共創により、地方創生を推進していきます。

3つ目の推進体制としまして、KPI等によって進捗を管理し、地方創生戦略会議で状況や成果を確認しながら、評価、公表、改善を行うこととしております。

説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質問等はありませんでしょうか。どなたからでもどうぞ。ありませんか。

太田委員、どうですか。

○委員（太田 智博） まあ、どうぞ。

○委員長（西田 真） よろしいか。

それでは、次に参ります。

地域づくり課の説明をお願いいたします。

地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 私のほうからは、地域づくり課の件につきましてご報告させていただきます。

4ページをご覧くださいと思います。移住定住・結婚支援・若者施策の推進でございます。

こちら、現況と課題といたしまして、人口減少を少しでも緩和し、持続可能な地域とするために、UIターンの推進を図り、一人でも多くの若者の回復、増加を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

また、未婚率の上昇によりまして、出生率も低下

していることなどから、結婚する若者を増やすための結婚支援策を積極的に推し進めていく必要があるというふうにも考えております。

基本方針といたしまして、4点ございますが、U I ターン就職の促進、地域おこし協力隊をはじめといたしました若い方々が取り組まれる地域活性化活動への支援、若者が集い交流する場づくりからの結婚支援、これら若者交流の促進によります定住率の向上ということで上げさせていただいております。

概要といたしまして、移住定住の促進でございますが、市の移住ポータルサイト「飛んでるローカル」を通じまして、豊岡での住まいや仕事、そして、子育て中の保護者にとって関心が高いと思われます教育について情報発信を行っていききたいというふうに思っております。

移住希望者の土日の対応でありますとか、下見の際の現地アテンド等につきましては、暮らしのパーラーのほうに実施させていただいております。移住希望者の要望等に寄り添いながら、相談対応等を実施させていただいたところでございます。

また、実際に移住される段階でU I ターンするという方々に対しましては、仕事というものが大きな課題となっておりまいますので、仕事サイト「TOYOOKA WORK STYLE」でありますとか、ジョブサポ豊岡の窓口等を通じまして、豊岡の事業所の周知を図るとともに、阪神間で行われますU I ターン就職促進のイベント等への出展によるPRにも努めていきたいというふうに考えているところでございます。

また、はたちを祝う会を実施いたしております。はたちを祝う会を実施して、二十歳の皆さんをお祝いするとともに、そのタイミングで、LINE等で連絡先等、つながることによりまして、地元での就職を考えてもらうための情報発信にも努めるような感じで、つながりづくりをしているところであります。

なお、はたちを祝う会につきましては、今年度は総合体育館において実施するというものでいたし

ております。

2番目の移住の支援といたしまして、移住検討者を対象といたしました、豊岡市を下見に来られるとかということで、来訪支援といたしまして、来られる際の航空機運賃でありますとか、市内でのレンタカー代、宿泊費の一部補助を行っているところでございます。

次に、実際に移住をされるという段階になりますと、引っ越し費用の3分の2の助成ということで、上限はございますが、助成を行っているところでございます。

そのほか、東京圏からの移住ということで、こちらにつきましては幾つかの要件がまたありますけれども、国の制度を活用しながら助成をさせていただいているところでございます。

そのほかにも、市営住宅をお試し居住でありますとか、移住促進住宅というふうに目的外利用で活用しながら、移住者の移住促進に努めているという状況もございます。

このように、移住の検討段階から実際に移住していただくまで、切れ目のない支援を今年度も引き続き行ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、3番目になりますが、地域おこし協力隊の推進ということでございます。こちらにつきましては、移住スカウトサービスSMOUTのほうを活用いたしまして、効果的な募集を実施しているところでございます。4月1日現在で24名の協力隊員を委嘱させていただいているところでございます。

また、地域おこし協力隊員の活動中はもちろん、活動中から活動後に起業をされるという際におきまして支援を行うことによりまして、活動期間後におきましても豊岡に定住していただけるというふうな実績につなげていきたいというふうに考えているところでございます。

そして、4点目になりますが、結婚促進事業の促進といたしまして、1、マッチングの事業といたしまして、はーとピー、また、お見合い事業、こちら

は、これまで縁むすびさん事業と言っておりましたが、omia事業とちょっと名前を変えまして、今年度から実施していきます。

こういったお見合い促進の事業を継続して実施するほか、民間事業者の皆さん、主に飲食店の皆さんとなりますが、そちらのほうで開催いただきます婚活イベントにも補助をしてまいりたいというふうに考えております。

また、総務省のメニューを活用いたしました地域プロジェクトマネージャーが最終年度ということになります。今後も豊岡市で継続して結婚支援というものが執り行えるための体制づくりというものを、この1年間で検討して、つないでいただいているという状況でございます。

最後に、若者の居場所づくり事業の推進ということで、こちらはふるさと財団の補助を受けながら、イベント実施への相談やアドバイスに当たっていただけます地域再生マネージャーを活用し取り組んでいるところです。今年度もTOYOOKAミラスイッチなどを開催しまして、若者のアイデアの実現化へ向けて意見交換をしたり、また、助言、アドバイスを受けられるような場を提供していくこと、また、具体的なイベントの実施に当たっての開催支援や若者が交流できる事業の実施など努めていきたいというふうに考えております。

地域づくり課からは以上になります。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今の地域づくり課のことで、概要の1番目に上げておられる移住定住の促進ですけれども、飛んでるローカル、暮らしのパーラー、それから、ジョブナビ豊岡、ジョブサポ豊岡、この辺の、大分時間も経過するんですけども、状況はこう、強くなっているのか、その辺りは、概況はいかがでしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちらのほう、ま

ず、飛んでるローカル豊岡につきましては、多くの方に閲覧をいただいております。その中で、先ほど申し上げましたように、住まいや仕事、そして、子育て中の教育という3本の柱、そして、先ほど少しお答えしておりませんでした、市民ライターによる記事の構成ということで、多くの方に読んでいただいているということで、マンネリ化せずに、そして、より多くの移住希望者の方に見てもらえるような仕組みの構築を図らせていただいているということで、今年度につきましても、教育分野というのがやはり子育て中の保護者の方には関心が高いということで、そちらにつきまして、もう少し豊岡の特色ある教育について分かりやすいようなサイトにしていきたいなということで改善を考えさせていただいております。

また、暮らしのパーラーにつきましても、やはりなかなか行政職員でいきますと、土日等の対応、また夜間の対応というのが十分いきませんので、民間事業者のほうに委託させていただく中で、移住希望者の方に喜んでいただいているものというふうに思っております。

そしてまた、「TOYOOKA WORK STYLE」につきましても、多くの企業様のほうから、サイトのほうに登録をいただきまして、ご活用いただいていることがございます。

ただ、ジョブサポ豊岡の部分につきましては、窓口のほうで無料職業紹介というような形でさせていただいておりますが、こちらのほうは、少し相談件数が少ないということで、そういった部分の原因の解明も含めまして、少し改善は、また、今後考えていけたらなというふうに思っております。

私からは以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 令和7年度、実績として、この移住促進について、私も個人的にといいますか、個人あるいは議員としても非常に関心の高い分野ですけれども、一人でアンテナを高くしております、なかなかゲットできないというのは感じているんですけども。実際として、移住促進がかなり強

く実績が出てるのか、この辺りはいかがでしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 私どものほうとしたしましては、一応年間100人程度の移住者を確保していきたいというふうなことで目標を掲げさせていただいております、その数値目標という部分でいきますと、クリアをさせていただいているという部分がございます。

ただ、その100人でいいのかどうか、そして、もっと届くような形の仕組みづくりはどうあるべきかということは、まだまだ課題はたくさんあるかと思っておりますので、改善の余地はあるかと思っておりますが、現時点におきましては、十分というところまでいかないかもしれませんが、頑張って貢献はさせていただいているのかなというふうに、民間事業者の皆さんも一緒に貢献、チームとなって取り組んでいるのかなというふうに考えております。以上です。

○委員（福田 嗣久） 分かりました、結構です。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（福田 嗣久） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

太田委員。

○委員（太田 智博） 1点要望と1点ちょっと質問をさせていただきたいのですが、この前、各議員宛てに、5月16日に開催されるたじま出逢い日和でしたかね、出会い系、婚活イベントが5月16日に開催されるということで、私の勤務する会社の独身男性にも配付はさせていただいたのですが。題名が婚活イベントってなっているので、少しハードルが高いかなというのがある、何かもう、婚活を目的にしないと参加がしにくいかなというのが1件問合せがあったのと、但馬全域、3市2町での男女20人ずつの多分募集だったかと思うのですが、例えば40代独身も結構いるのはいるのですが、例えばこの募集の人数に満たなかった場合には、少し枠を広げて再募集をされるという考えがあるのかも含めて、少し教えていただけたらなと思

います。

もう1点ですけど、飛んでるローカル豊岡の空き家サイト、私も実家が空き家でしたので、このサイトに掲載をさせていただいたことはあるのですが。空き家が上がっていて、空き家を探している方についてはいいんですけど、反対に、逆に、こんな空き家を探していますっていうようなサイトがあって、それに空き家を持っている方がアプローチしていくって、ちょっと逆のパターンなんですけど、そんなのも少し検討していただけたらなと思っています。

空き家が今上がっていて、空き家を希望される方が、今、それを見て探されていますけど、逆に、但馬に住む住まない関係なく、こんな空き家だったら欲しいなという方を、例えば上げていただいたときに、ああ、うちの家やったら、そのニーズに結構合うようになっていって、そこはまた、こういうマッチングっていうんですかね、こう接触ができて、空き家がなくなっていくっていうふうなことも一つ逆の手でいけるのかなと思ったりもするんですけど、そんなのもちょっと検討していただけたらなっていう要望です。

だから、質問1つとちょっと要望1つさせていただきました。お願いします。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） お尋ねをありがとうございます。

まず、ご質問の関係で、婚活イベントのたじま出逢い日和のほう、婚活色が強いというふうなことで、ほかからも、この事業に限らず、もう少し、もっと入り口の、本当に友達になりたいという部分のイベントがあってもいいのかなというふうな要望は何っておりますので、若干、まだその部分というのができてないのかなというふうには、議員ご指摘のとおり認識いたしております。

ただ、今回というか、は一とピーでありますとか、今回5月にさせていただきます、たじま出逢い日和につきましては、やはり前回の3月の委員会でご説明した中で、少し下流寄りの結婚を意識したイベン

トというような形でやらせていただいておりますので、もう少し上流の、異性の友達をつくりたい、同世代の友達をつくりたいという方の充実という形で取り組まさせていただくということで、少し対象を区分させていただく中でやらせていただいているという状況でありますので、ご理解いただきながら、我々としても、ご指摘のとおり、もう少し軽く参加できる、友達をつくりたいというところの要望もあるというふうに認識しておりますので、そこにつきましては見直しを図っていただけたらなと思っております。

また、今後、今回申込みが少なかった中でということではあるのですが、我々のこのは一とピーの事業等につきましても、主に20代、30代を対象とさせていただいておりますので、ちょっとその年齢幅の高いときのイベントもまたあつたりしますので、また但馬でやるときも、少し高い層をターゲットとしたイベントというのも考えさせていただきたいと思いますが、今回につきましては、既にもう20代、30代でターゲットということで募集させていただいておりますので、追加募集で改めて40代ということは少し難しいのかなということでご理解いただけたらなと思っておりますが、そういった世代に対するイベントというのも、広域になるのか、豊岡市だけとなるかは別といたしまして、少しは考えていただけたらというふうに思っておりますので、そちらも検討ということでご理解いただけたらと思っております。

また、空き家サイトの部分でございます。こちらの部分につきましては、不動産業界の皆さんのご理解をいただきまして、非常に私ども、行政側の負担が少なく、あくまでも個人さんが持っておられる不動産を不動産業者のほうを通じてまとめサイトの掲載させていただいているという、行政側からいくと非常に効率がいいサイトになっております。

それで、委員ご指摘のような形で、住まいを探されている方がこういった要望を出して、それを載せていって、それを見た市民の方等が、私の家をどうですかという部分につきまして、実際対応できる

のかどうか、また、対応するとしたら幾らぐらい費用がかかっていくのか、ニーズがどれくらいあるのかという部分、また検討させていただきまして、要望ということでしたので、受けさせて検討させていただけたらと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 太田委員。

○委員（太田 智博） 後者の部分については検討していただけたということでしたので、よろしく願いをしたいと思えますし、このたじま出逢い日和につきましても、様々な角度からこういう出会い系の事業をされているというのはもう認識をしておりますので、先ほど質問させていただいた内容もまた検討していただいて、今回は今回で、婚活イベントということで、20代から30代、20名・20名というふうになっていますけど、様々な願いをしたいというふうに思っています。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

ほかにありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 移住の支援のところで、状況というか、昨年、どれぐらいの利用者というか、例えば移住促進支援補助金であるとか、1、2、3とか、4番目の市営住宅の目的外使用、これ、新しいと思うんですけど、その申込み状況とか、その辺、分かっている範囲で、できたらお願いしたいなと思います。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） ありがとうございます。

まず、昨年度の移住相談者数につきましては、250名の方にご相談にお越しいただいたりしております。その中で、あと就職フェアということで、大学のほうに、神戸学院大学さんですが、そちらのほうにお邪魔しまして、UターンのPR、地元企業の紹介をさせていただいたりもしております。

また、移住フェアということで、大阪、東京、それぞれ2回ずつ、4回出展いたしまして、こちらは、Uターンも含めました移住者の方々に豊岡の魅力を伝えさせていただけたというところですよ。

そして、来訪時に、先ほど宿泊代でありますとか飛行機、そして、自動車借り上げということでお話しさせていただきましたが、宿泊の補助を利用された方が39件ございました。それらを通じまして、実際にそういった移住相談窓口を通して、我々が把握できている移住者数といたしましては121名として実績はあります。先ほど申し上げましたように、一応私どもとしましては、年間100名を移住者として迎えたいというふうにしておりますので、そちらのほうの件数はクリアしたのかなと思っております。

そのほか、こちらのほうに移住してこられる際ということで、引っ越し費用の補助をさせていただいておりますが、こちらの利用が20件あったということです。

主な件数といたしましては以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） ありがとうございます。結構使われてるなと思います。

4番目の申込み状況、前、ちらっと聞いたんですけど、市営住宅、問合せはあるんだけど、利用者はまだ少ない、1件か2件かって聞いているんですけど、その辺はいかがですか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） そちらにつきまして答弁が漏れておりまして、申し訳ございませんでした。

具体的な数字、ちょっと今すぐ手元に出てきませんで、この委員会中に出れば、出させていただきます。少しお時間いただけたらと思います。

○委員（竹中 理） はい、以上です。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（竹中 理） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 1点確認させてください。

2の移住支援の（3）なんですけども、東京圏からの移住支援金というところなんですけど、これ、東京の方に直接届くような広報とか周知というのは

何かされていますか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 今、委員のご指摘にありました東京圏からの移住支援という部分で、東京にお住まいの方に直接届くようなPRということでありましたが、正直なところ、十分できてないと思います。十分そういった東京圏の方の把握もできてないということもございますので、周知できてないという状況でございます。以上です。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 支援金の上限が100万円ということで、なかなかインパクトの大きいものかなと思いますんで、ぜひともこれ、直接届くような形で、SNS含め、そういったところしっかり考えていただけると、市の負担も少ないので、ぜひ有効にいただけたらなと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちらにつきましては、また、県のほうのPRの仕方も含めまして検討させていただけたらと思います。ありがとうございます。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 県もこれ、多分随伴でという形だと思うんですけど、となると、逆に市がしっかりしていると差別化がしやすいと思いますんで、ほかの市町に比べて。だからこそ、豊岡市独自でしっかりやっていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 委員ご指摘のとおり、県でいきますと、兵庫県に帰ってきたらいいということです。薄まってしまうという部分はありますので、ただ、やはり県のほうがPR力、残念ながら持っている部分もありますので、県とどのような形で連携を図るのか、県とはどのような形で、目立つような形でPRできるのか、そういったものも併せて検討させていただけたらと思います。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（荒木慎太郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
森垣委員。

○委員（森垣 康平） すみません、ちょっと移住定住の件でお聞きしたいんですが、お試し住宅というのがあると思うんですけど、これは、期間は、最短のやつっていうのは1か月で間違いないでしょうか。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちら、お試し住宅でありますけれども、こちらのほうは、1年更新ということになっておりまして、1か月というような形でもいけると思いますけど、基本は1年かなと思って、少しこちらもお時間いただけたら、最長2年居住ということで、最短の部分につきましては、ちょっとお時間いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（西田 真） 森垣委員。

○委員（森垣 康平） といいますのは、あまりお試し住宅で1か月だ、1年だで、ただ、本当に軽く試したいという方にはちょっと長いと思うんです。例えばお子さんの春休みとか夏休みとかの間にだけ、ちょっと試して行ってみたいみたいな方もいらっしゃると思うんで、もう半分ちょっと旅行気分的なお試し住宅、ライトみたいなのもあってもいいのかなと僕ちょっと思うんですけど、観光のお客さんとのすみ分けがちょっと難しいとは思いますが、何か、この前視察したまちでは、そういったものを試されてて、結構な数の方が、それが実績として移住されていまして、ちょっとこのライト的なものっていうのを考え方あるのかお聞かせください。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 現在のところ、そのような形での検討はいたしていないところですので、ほかの先進自治体のほうの、またちょっと事例をお聞かせいただきながら、少し勉強させていただけたらと思います。

○委員長（西田 真） 森垣委員。

○委員（森垣 康平） うちのまちはすごく城崎、出

石、神鍋、いろいろと観光がすごく強いので、そこを引っかけていって移住につなげていくというやり方がすごく有効なような、僕は気がしますので、そのライト的な移住お試しというのでも試していただけたらと思うんで、ぜひ検討してください。よろしく願います。以上です。

○委員長（西田 真） 地域づくり課、宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 委員の皆様のまた知見もお借りしながら勉強させていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

ほかにありませんか。

それでは、次に行きたいと思います。

こども未来課の説明をお願いいたします。

こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 資料のほうは6ページをお願いいたします。こども未来課、こども計画の推進及び妊娠・出産・子育て支援の推進についてご説明をいたします。

まず、現況と課題です。2025年3月に、子ども・子育て施策の方向性を示すため、豊岡市こども計画を策定いたしました。今年は2年目を迎え、庁内関係課、関係機関と連携して、計画を着実に推進する必要がございます。

また、市内では、出産した家庭の約4割が子育てにサポートを必要とする状況にあります。

続いて、基本方針です。妊娠期、出産期、子育て期の各ライフステージに応じて、相談支援、母子保健に関する支援、子育て支援、経済的支援など切れ目のない支援を行うこととしております。

次に、概要に取組を掲載しております。5項目上げております。

1つ目、こども計画の推進です。教育、福祉、学識経験者等の委員で構成する子ども・子育て会議を開催し、意見を伺うこととしております。

また、情報発信の強化に努め、今年3月には、本市の子育て、教育に関する先進的な取組を分かりやすく伝えるため、TOYOOKAみんなで子育ておうえんまっぷを作成いたしました。今年度は漫画や

動画などを活用した情報発信にも取り組む予定としております。

2つ目、妊娠に関する支援です。2020年度から開始した特定不妊治療助成は、今年度、新たに交通費についても助成する予定でございます。国の制度を活用いたしますので、国から示される要綱を基に、市としても助成していく予定としております。

また、不妊治療ペア検査、不育症治療費についても引き続き助成をしております。

3つ目、妊娠期における支援です。妊婦健康診査の健診費用につきましては、健康保険の適用外となっており、上限額11万2,000円を助成しております。

妊婦支援給付金の支給と妊婦等包括相談支援については、妊娠期から切れ目のない支援を行う観点から、経済的支援とともに、妊娠期から出産、子育てまでの一貫した相談支援の充実を図っております。

4つ目、出産期における支援です。産婦健康診査費助成事業は、産後1か月頃の産婦の健康状態や心身の回復状況を確認するための産婦健診費用を助成、上限5,000円となりますが、これらを助成しております。今年度からは、新たに産後2週間での受診に対しても助成を行います。

1か月児健康診査費助成事業は、2025年度から創設した取組で、赤ちゃんが初めて受ける健診の費用を助成するとともに、健診結果を受領することで、医療機関と連携した指導や育児に関する助言を行うものです。

産後ケア事業、産前産後サポーター派遣については、継続して取り組む産前産後サービスでございます。

最後、5、子育て期における支援ですが、健診、各種教室、相談など、様々なタイミングで育児支援を継続して行います。

最後に、こども広場及び市民交流広場の運営です。指定管理者と協力し、より多くの利用者が満足いただけるように努めていきたいと考えております。

説明は以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございました。
説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。どなたからでもどうぞ。よろしいか。

荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 産後ケア事業なんですけれども、これ、どれぐらいの利用率があるのかっていうのは、今出せたりしますか。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 現在、今、集計しております、ちょっと正確な数字のほうが手元にございませんで、また、後ほどご報告させていただきます。

○委員（荒木慎太郎） 分かりました、以上です。

○委員長（西田 真） 委員会のほうに、事務局のほうに出してください。

よろしいか。

○委員（荒木慎太郎） はい、大丈夫です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

それでは、次に参ります。

次に、環境経済課の説明をお願いいたします。

環境経済課、瀬崎次長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 8ページをお願いいたします。産業の振興（人口減少対策）についてご説明いたします。

現況と課題ですが、域内人口の減少に伴い、消費力の低下や労働力の不足など、市内経済への影響は多岐にわたると認識しております。その対策といたしましては、多様な創業や事業承継への支援と併せ、豊岡の強みを生かした新たな価値を見だし、地域全体として稼ぐ力を高める必要があると認識しております。

基本方針といたしましては、多様な支援策を関係機関の皆様と連携して行い、地域に根差した経済の担い手となっただけの経営者を創出するとともに、成長を目指す企業の皆様に支援することといたしております。

あわせて、基幹産業でありますかばん産業に対して、販路の拡大や人材の育成など、課題解決に向け

た支援を行うことといたしております。

概要です。主に記載をしております2項目について取り組んでまいります。

1の地域経済の担い手の育成、推進及び稼ぐ力の強化に向けた支援といたしまして、特に(2)に記載しております取組で、商工会議所や商工会と連携させていただき、あわせて、ビジネス相談窓口IPPOTYOOKAプラスの運営及び創業に向けたセミナー等を開催いたします。

また、(3)の取組として、各支援補助金によるご支援に加えまして、(4)にあります継業バンクによる事業承継を推進させていただき、地域の生業を守る橋渡しに取り組んでまいります。

さらに、今年度より新たに、(5)といたしまして、奨学金返済支援補助金やインターンシップの受入れ支援補助金により、若者の確保と定着を支援いたします。

2の特産業の振興といたしましては、かばん産業に携わる人材育成への支援や豊岡かばんの一層の認知の向上に取り組み、地域ブランドの確立に向けた対策に取り組んでまいります。

環境経済課からの説明は以上です。

○委員長(西田 真) ありがとうございます。

説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。どなたからでもどうぞ。

福田委員。

○委員(福田 嗣久) 環境経済課の説明をいただきました中で、産業振興全般のことは理解しているんですけども、いつだったか議長にもお話ししましたが、今の状況の中で、なかなか厳しい状況が出てきているというふうには私は認識をしております。全般の産業振興は今説明で理解するんですけども、今のホルムズの封鎖の状況、また、逆封鎖のほう、昨日、今日から出てますけども、そういう状況が長引くことによって、かなりいろんな分野に影響が出てくるという想定をしております。

かばん業界の人と少し話をしておりますも、やはりこの先が非常に見えにくい中で、注文が成約し

にくくなっている状況の話も聞いておまして、今、直近の問題として、その辺りのことをどういうふうに捉えていらっしゃるのか、少し聞かせていただきたいと思います。

○委員長(西田 真) 産業経済部長、坂本部長。

○産業経済部長(坂本 成彦) まさにご指摘のとおり、喫緊の中東の情勢がかなり影響を今後及ぼしていくんじゃないかということで危惧をしています。周りの方にお聞きしてても、既に資材費が来月から上がっていくというふうなことも聞いていますし、非常に心配をしているところです。

もうすぐに我々、打てる手はないんですけれども、取りあえず経済連絡会議のメンバーに、状況の調査を緊急で今行っているところです。全般的な経済の状況をどう見通すかということと、個別企業からいろんな声が聞こえてきているとすれば、それを取りまとめていただいて、集約をしていく。集約といいますか、市が集約するだけでなく、共有すること、金融機関も含めて、経済連絡会議のメンバーでその状況を共有して、じゃあ、次にどうことを考えていかなきゃいけないかということ、また、臨時会議等も開きながら、今後の対策を練っていきたいというふうに思っております。

ただ、ちょっと状況が本当に読めないということもあります。長期化をするおそれもあると思っておりますので、国も恐らく何らかの手を打ってくるでしょうし、それに対応できるような、即応できるような体制を取っておくということも併せて行っていく。ちょっと不透明ではありますが、今はそういう状況にあります。

○委員長(西田 真) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) 確かにおっしゃるように、非常に不透明だというふうに見ておりますし、これは経済だけでなく、農業にも全て及んでくる、あるいはいろんなことに及んできているなというふうな気がいたしておりますので、市が直接、すぐに何かできると思っておりますけれども、情報をつかまえていただくことと、金融機関を通じていろんな情報を取り入れていただきながら、何ができるかとい

うようなことに頭を働かせていただきたいというふうなことは念じております。

本当に、これからどうだろう、どちらにしても、私の考えでは、2週間とか3週間でこの問題が一応解決したとしても、1年、2年にわたってかなりの影響が出てくると思っておりますので、具体的には廃業も出てくるし、倒産も出てくるし、あるいはまた、農業においても事業縮小が出てくるしというふうに、かなり広い範囲にわたって影響が出てくるというふうに見ておりますので、ここは大変大事な経済産業の振興につながりますし、また、人口減少にもつながってくるというふうに思っておりますので、十分に配慮していただきたいということを、これは要望しておきたいと思います。

それと、もう一つだけ。

○委員長（西田 真） はい、どうぞ。

○委員（福田 嗣久） ちょっとこれ、個別に、関係ないかも分かんけども、この新聞を、1週間か2週間に一遍来ます、北近畿経済新聞です。この人口のところを見ると、我々が認識するより厳しい数字がいつも書かれております、昨対比で。今現在、これ、昨日かな、来た新聞ですけども、豊岡市が7万964とありますんですけども、これの根拠はどういうふうに出してきてるのですか。分かりますか。推計人口という、市別推計人口です。

○委員長（西田 真） 経営企画課、浪華課長。

○経営企画課長（浪華 誠） 住基人口とかではなくて、恐らく県の推計人口かと思われるんですけど、恐らくです、すみません。私もその新聞記事、読んでおりませんし、恐らく、今委員がおっしゃったことから推測すると、そういう数字かなと思います。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 県が出している基準に対してのアップダウンですか。県が出している。

○委員長（西田 真） 経営企画課、浪華課長。

○経営企画課長（浪華 誠） 県が推計人口を出されていると思うんですけど、その数字をベースに書かれているのかなと、推察ですけども、思います。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 全般、但馬や丹後をずっと見てますと、頭に入っている人口より大体1,000人、2,000人、3,000人少ないような状況です。厳しいなと思って見ているんですけども、まあまあ、よろしい、それで。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） この成長を目指す企業や起業に取り組む若者・女性等の相談業務というのの業種とか今の現状はどんなんでしょうか。

○委員長（西田 真） 環境経済課、瀬崎次長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） やはりサービス業が多いです。

参考までに、IPPO TOYOOKAプラスですけども、創業から7年目に当たります。昨年度、70名の方、ご相談に来られまして、複数回来られる方もあります。件数でいきましたら、1年間で190件の相談を受けていただいています。そのうち13名が新たに起業されたという形になります。以上です。

○委員長（西田 真） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 確かにサービス業が若者にとっては、まず取り組みやすい業種だと思うんですけども。とにかくそういう、どういうんですかね、若者が、やっぱりそこに商売を始めると、そこに家庭を築いてというふうには、もう根を下ろしてくれると思うんで、ぜひとも上手に相談に乗って、どんどん件数を増やしていただきたいと思います。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
竹中委員。

○委員（竹中 理） 奨学金返済支援補助金ですけど、豊岡市内で今、これからだと思うんですけど、目標どれぐらいとか、具体的に、幾ら、どういう形態でその企業に対して言っていくのかっていうのをちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（西田 真） 環境経済課、瀬崎次長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） まず、大前提といたしまして、この対象とさせていただいています仕組

みが、国が持っておられます日本奨学金の協会でお借入れをされたもの、あわせて、兵庫県が支援制度を持っておられますので、この兵庫県の支援制度に申込みをされた企業さんに対する残った部分の支援というような形のイメージが一番分かりやすいと思います。

兵庫県では、4月からおおむね2月ぐらいまでの間に、例えば株式会社Aさんが新たに5名の奨学金返済の方を採用されましたよと。そのときには、正規の職員様として採用いただいているあかしとしては、社会保険料の納付ですとか、そういったものをご提出いただいて、県が承認されます。兵庫県にお願いしまして、その承認の写しを当市に頂戴し、申請企業様の申請手続の緩和という面で、簡単な申請書類で随伴の補助ができるような簡単な仕組みにさせていただいております。極力企業様の負担や若手の方のご負担が減るように、県が支援される足りない部分を市が補うといったようなイメージで持たせていただいております。

今年度スタートしたところでございます。実際、昨年度、兵庫県様の補助の実績としましては、市内で29件、額で250万円ぐらいの補助の対象となっております。以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） ありがとうございます。うちの娘や息子も奨学金やっていて、豊岡にそういう企業がたくさんできたら、またこう、帰ってこよう、ほかの皆さんもそうだと思いますけど、やっぱりそれも人口減少の一つのあれになると思うんで、ぜひ頑張っていただけたらと思います。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（竹中 理） はい。

○委員長（西田 真） 答弁、何かありますか。よろしいか。

ほかにありませんか。よろしいか。

どうぞ。

○こども未来課長（旭 和則） 先ほど荒木委員のほうからご質問がございました産後ケアの実績でございます。大変申し訳ございません、遅くなりま

した。

実績といたしましては、産後ケアの利用者なんです、実人数といたしましては117人で、利用率といたしましては、出産の分母の数字がちょっと正確ではないんですけど、おおむね38%弱の利用率となっております。以上でございます。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） ありがとうございます。これ、宿泊、日帰り、訪問、全て合わせた数でよろしいですか。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） 内訳といたしましては、宿泊型のほうの実人数が16名、それから、日帰り、訪問型のほうが101名、合わせて117名となっております。以上です。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） どうしてもちょっと宿泊が少ないのかなと思って、僕も、お母さん方の意見聞いていると、ちょっと使いにくいものもあるんだということがあったので、ある程度見直しも必要なのかなとも思っておりまして、僕も詳しい内容が分かってなくて恐縮なんですけれども、お母さん方が使いやすいものに、ちょっとずつブラッシュアップしていくというのも今後必要かなと思います。これ要望です。以上です。

○委員長（西田 真） こども未来課、旭課長。

○こども未来課長（旭 和則） ご指摘いただきましたとおり、また、利用者の皆様のお声もお聞きして、よい利用になるように検討してまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。ほかありませんか。

宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 失礼いたします。

先ほど竹中委員よりご質問いただきましたお試し住宅の状況の関係ですけれども、少しまだ資料を持ち合わせておりませんので、委員会終了後に出させていただきます。申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

○委員（竹中 理） お願いします。すみません。

○委員長（西田 真） それぞれ4つの課で答弁等、数字的に出していただいた分、また未回答の分含めまして、回答した分の数字でよろしいけど、当局のほうに出していただければ非常に分かりやすいんで、その辺、よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいですか、ほか。

ないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますが、せっかく部長さんたちが時間を割いて来ていただいていますので、令和8年度の豊岡市政の推進のための思いを一言ずつ言っていただければ。よろしくお願ひしたいと思います。

まず、市長公室長の谷口さん、よろしくお願ひします。新年度の思いです。

○市長公室長（谷口 雄彦） 昨年の末で地方創生の総合戦略と新しい市政経営方針は策定はしましたので、その初年度として、しっかり動かしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

○委員長（西田 真） 短いですね。

続きまして、くらし創造部長、太田垣部長、よろしくお願ひします。

○くらし創造部長（太田垣健二） 失礼いたします。

1年で代わるとは思いませんでした。今年度から、総務部から区長会の事務が下りてきたり、あと、都市整備部から危険空き家の関係の事務が下りてきたりして、それって、単に関連している窓口は一本化しようっていうことではなくて、プラスアルファのことを見込んでの組織改編だろうということを考えていますけど。じゃあ、どういったことができるんだろうっていうのは、また、部内、課内でいろいろ検討しているところです。

移住定住ですとか、今のこの事務概要に対する各委員さんからの質問が、これが一般質問だったらえらいことになるなと思ひながら、危機感を感じながら、でも、これを前向きに捉えていって、少しでもこういう人口減少にあらがえるような施策が打てたらなと思っています。以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、こども未来部長兼子育て専門官、若森さん、よろしくお願ひします。

○こども未来部長兼子育て専門官（若森 洋崇） まず、こども未来部の部長として、所管業務はしっかり進捗管理をして、より磨き上げていきたいというふうに思っております。

加えまして、子育て専門官としてです。市長が、子育てに優しいまちというのは最優先事項だというふうに申しております。創生5でも一番頭に記載されています。特に、その当事者の皆さん、もちろん妊娠、出産前の方から含めて、豊岡は子育てに優しいまちだよねとか、そういうふうになりつつあるよねっていうふうに言ってもらえるように、様々な分野の、教育はもちろんですし、母子保健とかもちろんです、困窮対策もございします、障害云々もありますし、公園、住宅、様々、経済、幅広くございしますけども、各分野の施策、事業をシェアリングとか新結合とかっていう観点からも磨き上げていって、かつうまくプロモーションをして、要は知っていただく、理解度を高めていただくようなことに取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

続きまして、産業経済部長の坂本部長、よろしくお願ひします。

○産業経済部長（坂本 成彦） 産業経済部という新しい枠組みになりました。経済と観光とスポーツ、文化が一緒になっているというふうなことで、創生5と言われる中で、経済と集いついていうところが含まれているような気がしていますので、経済×集いついてみたいことを、ちょっと新しい切り口、視点で考えてみたいというふうに思っています。それによって、地域活性化して、人口減少にまたつながるような施策がつくっていけたらなというふうに思っているところです。頑張りたいと思います。

○委員長（西田 真） よろしくお願ひします。ありがとうございます。

あと2人、発言をされてない方も一言ずつお願ひします。

こども未来部次長兼こども支援課長の吉本次長。

○こども未来部次長兼こども支援課長（吉本 努）

発言の機会いただきましてありがとうございます。

基本的に所掌していますのが、こども支援というふうな立場で、人口減少と直接的なものではないというふうに認識しております。どちらかというと、今ある子供中心とか、保護者に対していろんな課題がございますので、そちらのほうを支援して、間接的に人口減少というか、暮らしやすいまちという形につなげればというふうには思っておりますので、その課題が本当に複雑多岐にわたっておりますので、いろんな関係機関とかもろもろと調整しながら、いろんな支援策を展開してまいりたいというふうに考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（西田 真） よろしくお祈いします。

続きまして、こども未来課、丸谷参事、お祈いします。

○こども未来課参事（丸谷 祐二） どうも発言の機会をいただきましてありがとうございます。

昨年1年間、こども未来課のほうにおりまして、いよいよ今年は市長の旗頭に子育て支援というのが上がってきまして、非常に武者震いをしていところでございます。1年間、関わっておりまして、豊岡の子育て支援というのが、果たしてほかの市町に比べて足りていないのか、あるいは強みはどこなのかということも見てまいりました。

総じて見ていると、いろんなことをやっているんだけど、なかなか知られていないなというふうな感じをもったところでございます。実は豊岡ってこんなにいいことをやっているんだよということをもっともっといろんな方に知っていたき、それは市内の方もですし、市外の方に対しても豊岡の魅力というのをもっともっと知っていただく。観光地として来るだけではなくて、住んで、もっと生き生きと楽しく暮らせる、そういった家族が増える、そういった施策を打てればなというふうに考えておりますので、またいろいろとご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思います。どうもありがとうございます。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

全ての方に、当局の方、発言していただきました。言い残したことはないでしょうか。大丈夫ですか。

本当に人口減少対策というのは多岐にわたりまして、大変な課題であります。豊岡市だけではなく、特に豊岡市に対して人口減少対策を、当局も含めまして議員も一緒になって人口減少対策をやっていきたいと思いますので、この1年間、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

それでは、当局の職員の方は退席していただいて結構です。ありがとうございました。お疲れさまでした。

暫時休憩します。

午前10時21分休憩

午前10時22分再開

○委員長（西田 真） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、（2）の委員会の運営方針についてであります。

委員会重点調査事項をSide Books上の本日のフォルダの中、次第等の資料4ページ目に配信しております。改めて、今期の委員会重点調査事項について協議をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午前10時23分休憩

午前10時24分再開

○委員長（西田 真） それでは、会議を再開いたします。

今期の委員会重点事項は引き続きということで、異議がないということでありますので、そのとおりに継続してさせていただきたいと思います。

よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、異議がないようですので、そのように決定いたしました。

それでは、次回の委員会で特に調査を進めていき

たい項目があればご協議願いたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前１０時２６分休憩

午前１０時２７分再開

○委員長（西田 真） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次の委員会ですけど、特に特出しということじゃなしに、全般的にするということでまとめていきたいと思いますので、それでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 異議なしということで、そのように決定させていただきます。

それでは、（３）番です。その他として、委員の皆様から何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 特にないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午前１０時２９分閉会

2026年度

豊岡市事務概要

(重点事項)

(人口減少対策調査特別委員会所管分)

1 重点事項

担 当 部	担 当 課	項 目	頁
市長公室	経営企画課	地方創生（人口減少対策）の推進	3
くらし創造部	地域づくり課	移住定住・結婚支援・若者施策の推進	4
こども未来部	こども未来課	こども計画の推進及び妊娠・出産・子育て支援の推進	6
産業経済部	環境経済課	産業の振興（人口減少対策）	8

経営企画課

地方創生（人口減少対策）の推進

（現況と課題）

本市では人口減少が引き続き進行しており、人口ビジョン（2025 年 3 月改訂）では、2020 年に 77,489 人であった人口が、「政策努力なし」の基準推計では 2050 年に 47,432 人、2070 年に 29,528 人まで減少すると見込まれている。

また、若い世代や子育て世代の定着、地場産業の担い手不足や事業承継の停滞、地域コミュニティの担い手の高齢化、デジタル化・脱炭素化への対応など、複合的な課題への対応も求められている。

このため、各分野の取組みを「点」ではなく、「横断的」につなぎ、人口減少の量的緩和と地域の「社会・経済・文化」の質的向上を同時に図る必要がある。

（基本方針）

2026 年 3 月に策定した「豊岡市市政経営方針（後期）・第 3 期豊岡市地方創生総合戦略」では、「市政経営方針」と「地方創生総合戦略」を一体の計画として位置付け推進することとしている。

今後は、国の地方創生 2.0 の方向性も踏まえながら、「市のすべての施策・事業は人口減少対策であり、まちの総力戦」との考えの下、「子育て」「経済」「安心安全」「集い」「学び」の創生^{ファイブ}5 を柱として、各分野を相互に関連させながら地方創生を推進する。また、K P I 等によって進捗を管理し、外部有識者等で構成する地方創生戦略会議で状況を確認しながら、評価・公表・改善を行う。

（概要）

1 豊岡市市政経営方針（後期）・第 3 期豊岡市地方創生総合戦略

2026 年度～2029 年度（4 年間）

2 基本的な進め方

- (1) 創生^{ファイブ}5（子育て、経済、安心安全、集い、学び）を政策の柱として、シェアリング、新結合等の視点で、分野横断的に取組みを進める。
- (2) 「攻め（量的緩和）」と「守り（質的転換）」の両輪により、新たな価値の創出と日々の暮らしを支える基盤の維持を一体的に進める。
- (3) 市民、地元企業、地域団体、学校その他豊岡に関わる多様な主体との共創により地方創生を推進する。
- (4) 毎年度、計画の進捗状況を確認し、評価・公表・改善につなげる。

3 推進体制

地方創生戦略会議において進捗状況及び成果を確認し、その結果を公表するとともに、必要に応じて計画及び事務事業の改善に反映する。

地域づくり課

移住定住・結婚支援・若者施策の推進

（現況と課題）

人口減少を少しでも緩和し、持続可能な地域とするために、Iターン者の増加と豊岡出身の若者のUターンを促す必要がある。

また、未婚率が上昇していることから、出産適齢期の夫婦の数も減少することで出生数が低下し、人口減少のペースが加速している。

このため、定住する若者の増加対策とともに、結婚する若者を増やすための結婚支援策を積極的に推し進める必要がある。

（基本方針）

- 1 豊岡の暮らしの魅力や価値、「仕事・住まい・暮らし」等の情報を発信し、移住定住先としての豊岡の認知や興味を広げ、豊岡へ訪れる行動やU I ターン就職を促していく。
- 2 地域おこし協力隊を含めた様々な人材とともに、地域活性化のための活動を支援し、地域の元気を高めていく。
- 3 若者が集い交流する場や機会を増やししながら、交際・結婚に向けたきめ細やかな支援を行う。
- 4 若者の交流を促進し、定住率の向上を図る。

（概要）

- 1 移住定住の促進
 - (1) 移住定住ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」の運営
 - (2) 民間による移住相談窓口「暮らしのパラー」の運営
 - (3) 仕事探しサイト「TOYOOKA WORK STYLE（ジョブナビ豊岡）」の運営
 - (4) ジョブサポ豊岡（無料職業紹介所）の運営
 - (5) U I ターン就職促進のイベント実施
 - (6) はたちを祝う会の開催
- 2 移住の支援
 - (1) 移住検討者を対象とした来訪支援（移住促進支援補助金）
対象経費の10/10以内を助成（宿泊費一人1泊上限2千円、航空運賃片道上限4千円、レンタカー代1日上限3千円）
 - (2) 移住者を対象とした引越し費用の支援（定住促進事業補助金）
対象経費の2/3以内を助成（上限200千円）
 - (3) 東京圏からの移住支援金（国制度 負担割合：国1/2、県1/4、市1/4）
支援金上限世帯1,000千円、単身世帯600千円、子育て世帯は子ども一人に

つき 1,000 千円を加算

- (4) 市営住宅の目的外利用（お試し居住・移住促進住宅）による支援

3 地域おこし協力隊の推進

- (1) 受け入れ調整及び募集
- (2) 隊員の活動支援
- (3) 隊員の起業・定着支援

4 結婚促進事業の推進

- (1) 出会い機会創出事業（マッチングイベント「はーとピー」）の実施
- (2) omiai 事業（お見合い促進※旧縁むすびさん事業）の実施
- (3) 民間が開催するイベントへの補助
市内婚活イベント開催に係る経費の 10/10 以内を助成（上限 50 千円）
- (4) 地域プロジェクトマネージャーの任用

5 若者の居場所づくり事業の推進

- (1) 地域再生マネージャーの活用
- (2) 若者の居場所づくり事業の実施
- (3) 若者交流イベントの実施

こども未来課

こども計画の推進及び妊娠・出産・子育て支援の推進

（現況と課題）

こども・子育て支援に関わる庁内関係課や関係機関と連携を図り、市のこども・子育て施策の方向性を示した「豊岡市こども計画」を着実に推進する必要がある。

市内では出産した家庭の約4割が、「子育ての支援者がいない」「強い育児不安」「養育能力の低さ」「経済的不安」「心身の疾患」などの問題を抱え、子育てにサポートを必要とする状況である。

（基本方針）

妊娠期から安心して子育てできるように、妊娠期、出産期、子育て期の各ライフステージに応じて、相談支援や母子保健に関する支援、子育て支援、経済的支援など切れ目のない支援を行う。

（概要）

1 豊岡市こども計画の推進

- (1) 子ども・子育て会議の開催
- (2) 情報発信の強化

本市の子育て支援や子育て・教育に関する先進的な取組等を市内外に効果的に、わかりやすく伝えるため、「TOYOOKA みんなで子育ておうえんまっぷ」を作成した。今後はマンガや動画を活用し情報発信を行う。

2 妊娠に関する支援

- (1) 特定不妊治療（生殖補助医療）費助成
- (2) 特定不妊治療（生殖補助医療）にかかる通院交通費助成

こどもをほしい方の経済的負担を軽減するため、治療費助成に加え、新たに通院交通費の一部を助成する。

- (3) 不妊治療ペア検査、不育症治療費の助成

3 妊娠期における支援

- (1) 妊婦健康診査費助成事業
- (2) 妊婦支援給付金の支給と妊婦等包括相談支援の実施

4 出産期における支援

- (1) 産婦健康診査費助成事業

出産直後の母親の育児不安の解消、心身の健康維持のため、産後1か月健診に加え、産後2週間での健康診査費を助成する。

- (2) 1 か月児健康診査費助成事業
- (3) 産後ケア事業（宿泊型、日帰り型、訪問型）
- (4) 産前産後サポーター派遣

5 子育て期における支援

- (1) 乳幼児健診、育児教室、発達相談、育児支援教室、各子育てセンター、子育てなんでも相談室（アイティ4階）などの実施
- (2) こども広場及び市民交流広場の運営

環境経済課

産業の振興（人口減少対策）

（現況と課題）

域内人口の減少に伴い、消費力低迷への不安や労働力不足等、地域経済を支える市内企業は多くの課題を抱えている。

このため、市内企業への各種支援や多様な創業への支援、事業承継への支援等を行い、新たな価値や雇用を生み出す必要がある。

併せて、本市の基盤産業である鞆産業の競争力を強化し、豊岡独自の強みを活かし、地域全体の稼ぐ力を高める必要がある。

（基本方針）

創業および事業承継にかかる多様な支援施策の連携を強化し、地域に根差した経済の担い手となる経営者を創出するとともに、伴走支援を通じてその育成を図る。併せて、成長を目指す企業を支援する。

また、鞆産業の販路拡大や人材育成などの課題に対する支援を行う。

（概要）

- 1 地域経済の担い手育成の推進及び稼ぐ力の強化に向けた支援
 - (1) 豊岡市経済ビジョンに基づく施策の検討
 - (2) 成長を目指す企業や起業に取り組む若者・女性等に対する相談業務の実施
 - (3) 起業チャレンジ支援補助金や成長投資・経営革新支援補助金などによる支援
 - (4) 継業バンク等を通じた事業承継の推進
 - (5) 奨学金返済支援補助金・インターンシップ受入支援補助金等による若手人材の確保・定着支援
- 2 特産業の振興
 - (1) 鞆産業の人材育成支援
 - (2) 「豊岡鞆」の認知度向上及び販路拡大の支援